日本大學 農獸醫學部 校友會々報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
〒154 東京都世田谷
区下馬3－34－1
TEL03－3421－8121
編集発行者
会報編集委員会
印刷所
東京商工KK

平成三年度総会と懇親会開催

入会金改正を承認

創立50周年に向け財政基盤確立

（上）本年度の総会と（下）声高らかに万歳を三唱する参会者

本年度の総会と懇親会は、七月十三日（土）、新宿京王プラザホテル「花の間」で開催されました。初めに本年二月十五日に逝去された、故佐藤弘一前会長の御霊に一分間の黙祷を捧げ、ご冥福を祈りながらの開会となりました。

総会には百三十余名の校友が出席、庄川会長を議長に選出、次の議案について審議承認されました。

①平成二年度一般経過報告
②平成二年度会計決算報告
③平成三年度事業と予算審議
④入会金の値上げに関する件
⑤その他

入会金の値上げは、今年度総会の最重要議題でありますので、若干説明いたします。本議案は平成四年度入学生から、現行一万円の入会金を二万円とし、分会との配分比は現行通りの折半としたいという提案であります。②〜③号議案で示されたように、このままでは財政が悪化の一途をたどり、校友会活動の停滞が懸念されます。「会員相互の親睦を図り、日本大学の興隆発展に寄与する」という目的達成のため、また、六年先に創立五〇周年という節目を迎え、その記念事業を成功させるためにも確固たる財政基盤の確立が必要と思われます。八項目に及ぶ具体的な提案理由の説明がありましたが、ここでは紙数の関係で割愛させていただきます。会費の値上げは父母の経済的負担増となるから慎重でなければなりません。そこで、最初に各分会の事務局長と、名誉委員の合同会議を開催、分会の財政状況について話し合い、その結果をふまえて、分会長会議に諮問し、その答申をうけて理事会での最終審議という三段階を経て値上げ止むなしの結論に達し提案されたのであります。承認後の予算措置の概略を事務局が計数をもって示し審議の結果、ご理解とご賛同が得られ、満場一致で可決承認されました。

門田学部長が経過説明

総会終了後、先般来マスコミで報道された総長等告発に関する問題について、説明していただきたいとの母校を心配する校友の要望に応え、門田学部長より詳細な経過説明がありました。その数日後「告発に係る調査特別委員会」の答申を受けて七月二十日の臨時理事会で、役員については「ふさわしくない行為があった」として、

①一理事の役員報酬年額二割減俸
②二理事の解職。

学部長については「就業規則違反による」として①四学部長の解任と理事解職、②一学部長の解任…という処分が決定された。（日本大学新聞臨時第三十七号による）。

盛会裡に懇親会

第二部の懇親会は、百三十余名の校友に六十名の来賓が合流し、約二百名が一堂に会し、盛会裡に行われました。

最初に会長より「ご多忙中にもかかわらず、ご臨席下さった皆様に謝意を表します。総会では最大の懸案であった入会金値上げが承認され、財政基盤確立のメドがついたので、今後は大学発展のため校友会として、最大限の協力をしていく覚悟である」旨の力強いあいさつがありました。日本大学及び農獣医学部を代表して門田学部長、校友会関係を代表して日本大学校友会本部長の久恒真佐夫先生より、お祝辞を頂戴いたしました。さらに学部外からのご来賓の紹介、祝電、ご祝儀のご披露について、金沢昇樹農獣医学部次長のご発声で乾杯、懇談へと移りました。

最後は前農獣医学部長であり、校友会の名誉会長でもあられた久木田賢志先生のしめくくりにふさわしい内容のスピーチに万雷の拍手が起り、声高らかに万歳三唱をご発声、茂沢副会長の閉会宣言をもって終宴となりました。

（事務局）

学部祭 東京・藤沢 両校舎で開催

今年の学部祭は、（三茶祭）が十月二十五日（金）より二十七日（日）までの三日間と、藤沢校舎（藤桜祭）が十一月三日（日）、十一月四日（月）の二日間開催されます。

統一テーマは『青き地球に農獣医あり』と決まりました。学部祭実行委員会は、盛りだくさんの企画を立てています。

両会場には、校友休憩室を用意してございますので諸兄姉のご来校を、心からお待ちいたしております。

研究担当など変わる

平成三年度学部執行部

中村教授

高橋教授

井上教授

菊地参事

学部長・門田定美教授、事務局長・森　保参事、学務担当・山澤新吾教授、学生担当・中村邦光教授、研究担当・高橋文次郎教授、企画・広報担当・出口吉昭教授、就職指導担当・井上　勇教授、事務局次長・松浦高視参事、事務長（藤沢校舎担当）・渡辺　操参事、事務長・酒中得三参事、経理長・菊地昭福参事が執行部として活躍されている。

新しく任命された執行部はつぎのとおりである。（敬称略）

【学生担当】
中村邦光（五十七歳）教授。一般教養。東京理科大学理学部物理学科卒。学術博士。担当科目は物理学。

【研究担当】
高橋文次郎（六十六歳）教授。農学科、日本大学農学部農学科卒。農学博士。担当科目は蔬菜園芸学。

【就職指導担当】
井上　勇（六十一歳）教授。獣医学科、日本大学農獣医学部獣医学科卒。獣医学博士。担当科目は獣医動物学。

【事務長（藤沢校舎担当）】
酒中得三（六十一歳）参事。日本大学経済学部商業学科卒。

【経理長】
菊地昭福（五十九歳）参事。日本大学経済学部商業学科卒。

来年度からカリキュラムを改正

農獣医学部は、来るべき二十一世紀をひかえ、期待される農獣医学教育を、カリキュラムの改訂を通して改善をはかり、社会のニーズに答え、優れた人材を育成することを目指している。

このため、平成元年度からカリキュラム検討委員会を設置し、平成四年度において全学科を統一的にカリキュラムの改訂を行うべく検討を進め、今日に至っている。

この目的は、濃密度の授業、個性ある教育の充実、教育のゆとり、自主・創造性の高揚、ユニーク性の確保、国際化・多様化への対応である。

具体的には、教養分野においては、半期完結制、学科・学年を特定しない、理解力対応のクラス編成、総合科目の開設、留学生に対する日本語教育の新設などである。

教養・専門分野においては、一日の授業を一コマ九〇分、五コマ以内とし、週二五コマ以内。専門分野においては、卒業最低履修単位数一二四単位、専門分野の卒業に必要な単位数は原則として八四単位、開講単位数一二六単位（獣医学科、食品経済学科、拓殖学科は単位増）、卒業論文または卒業研究を課する、学科間の相互履修、進級単位基準を指導目標単位とするなど、従来の教育課程を全面的に改訂する方針で検討中である。

なお、本学部は、大学設置基準の一部を改正する省令（平成三年七月一日）施行において、教養・専門の単位区分の廃止、授業科目区分の削除など大幅な改訂がありこれらに対しても改訂を行う必要がある。

訃報

佐藤弘一氏死去

昭和四十七年四月から十五年間二代目会長として大学と校友会の発展に尽力された佐藤弘一氏は、病気療養中のところ心不全のため二月十五日他界されました。会長在任中は、日本大学評議員、同校友会副会長、同参与として活躍されました。校友の皆様とともにご冥福をお祈りいたします。

日本大学 農獣医学部校友会役員

役職	氏名
農獣医学部長 名誉会長	門田　定美
会長	庄川　洋一（拓植）
副会長 広報担当	茂澤　杲（農化）
副会長 庶務担当	一川　宏也（農工）
副会長 会計担当	野田　義人（食工）
理事	西鳥羽　曙（農学）
〃	浅野　明（農学）
〃	坪木　良雄（農学）
〃	江刺　琢磨（農化）
〃	木嶋　弘倫（農化）
〃	日比野次郎（獣医）
〃	大河　保治（獣医）
〃	白井　弥（獣医）
〃	木村　栄一（畜産）
〃	平田　芳弘（畜産）
〃	小牧　弘（畜産）
〃	三木　敏夫（食経）
〃	村山　進（食経）
〃	上野　恒雄（食経）
〃	鹿野　忠（林学）
〃	片岡　寛純（林学）
〃	大川富士雄（林学）
〃	山下　金義（水産）
〃	日野　演彦（水産）
〃	奥本　直人（水産）
〃	吉川　宏一（農工）
〃	辻　厚志（農工）
〃	中村　清一（食工）
〃	青井　幸雄（食工）
〃	小久保秀一（拓植）
〃	近藤良三郎（拓植）
〃	冨沢　寿樹（短農）
〃	山本　正義（短農）
〃	斎藤　忠雄（短農）
〃	川瀬　裕美（短生）
〃	岡崎　祥子（短生）
〃	飯塚　統（短生）
監事	山根　勝次（食経）
〃	川口　武志（獣医）
〃	岩間　脩（畜産）
事務局長	高坂　鉄雄（食経）
庶務	本江　一郎（林学）
〃	世良田和寛（農工）
会計	木村　貞司（畜産）

農学校友会

◇農学科◇

時代の進展に併せて 新カリキュラムに変更

「入学・卒業」高等学校の進学率九〇パーセントを越えてから久しいのですが、大学への進学率も合わせて高くなっています。今年も関東地方中心に、多くの入学志願者が受験をしました。厳しい入学試験を突破して、百六十三名の新入生が農学科の仲間に加わりました。

実は、今年の新入生から農学科は新しいカリキュラムに沿って講義・実験実習が行われています。すでに平成元年から新しい科学技術や農業に対応すべく、学科内容が時間をかけて検討され、変えられました。いろいろな手続きを経て今年四月入学した学生から、このカリキュラムが実施されています。新入生は、二年生以上の学生諸君とは、まったく異なった内容と方法で勉学しています。

入ってくる人があれば、去る人もいます。今年の三月二十五日に卒業式が行われ、農学科も百五十六名の卒業生を社会に送りだしました。

社会のいろいろな分野に雄飛していかれた卒業生諸君は、農学校友会の新会員でもあります。今後も農学校友会をよろしく、そして皆さんに続く後輩のためにも大いにがんばってください。

農学科は、これまで専門科目のカリキュラムをほとんど変更してきませんでした。これは、農学の基本的な主要科目が変わることはありませんし、個々の科目の担当者が内容的に常に新しい情報を取り入れながら実施してきたことにもよります。しかしいつまでも同じ状態でよいわけはありません。

特に時代の進展に併せて、その専門分野を新しい方向で見直し、農学科の中をさらに充実させるため、コース制の導入を決めました。

コース制を導入 新入生を対象に

ガイダンス兼研修旅行

農学の基本であるコースを農業生物コース、農学の中にある造園分野（環境保全や緑地計画など）のコースを緑地・環境デザインコースとしてスタートしました。

新しいカリキュラム変更に際し、基本的に卒業総単位数が減少しました。そのため、新しい専門科目を従来の専門科目の上に充実させるということは不可能で、新しい科目の導入と以前の科目の削除が検討されました。

コース制のよい点を十分伸ばし新しい農学科卒業生が、社会に羽ばたくのもそう遠くないことです。

毎年恒例の新入生に対するガイダンスを兼ねた研修旅行が、五月十八、十九の両日、富士山西麓の石和地域で行われました。

一年生のほとんどが参加し、四年生も各研究室から二～三名、教員側は坪木学科主任教授、一年生のクラス担任、カリキュラム検討委員であった教員が参加しました。

研修の主目的が既述の新しいカリキュラムの説明と、学生間の親睦であったため、両日にわたって真剣かつなごやかに行われました。

第一日目は早めに宿泊地ホテルに着き、大会議室で講義・実験実習・演習などの履修や、専門分野（コース）進路区分の詳細なガイダンスを行いました。大学に入ったばかりのため、内容的に十分理解できたかどうか心配な点もありますが、所期の目的を十分に果たしました。

来年三月には、二つのコースに分かれて、さらに専門的な分野を勉強することになります。この会報が皆さんの手元に着くころは、そろそろ専門分野を決めるころになります。

造園学研究室は昨年で満二十年になりましたが、今春まで教育・研究で大変お世話になりました福富久夫教授が定年を迎え退職されました。今後もご健康でご活躍されますようお祈りいたします。

先生の後任として、大阪府立大学から高橋理喜男教授をお迎えいたしました。高橋先生は新しいコースの発足とも合わせ、研究・教育両面でご指導いただくことになります。

近年、「薔薇」の栽培を中心として研究・教育に力を注がれていました佐々木弘康教授（花卉園芸学研究室）が、健康上の理由から今年の三月三十一日で退職されました。これまで長い間農学科の発展に大変ご尽力いただきました先生に心よりお礼を申しあげますとともに、ご健康に留意され過ごされますようお祈り申しあげます。

兼平勉専任講師（植物病理学研究室）は、今春から中期派遣研究員としてカナダ、ウニペグに出張されていますが、研究のプログラムの関係もあり、一ヵ月半延長されました。

まとまった時期を外国の研究者とともに過ごすことは大変意義深く、先生ご自身やその帰りを待つ学生にとってもすばらしいことでしょう。いろいろな成果が今から楽しみです。

主任教授に坪木教授

福富・佐々木両教授退任

大阪府立大学から 高橋教授が着任

今春は主任教授改選年に当り、農学科は坪木良雄教授（作物学研究室）を選出いたしました。

これまで農学科の新しい方向づけ、とりわけカリキュラム改訂という大事に大変ご尽力いただきました石井賢治教授（遺伝・育種学研究室）に代わって、坪木先生には、いよいよその実施・具体化に力を注いでいただくことになります。

農学校友会 会員名簿を発送

平成三年度農学校友会総会に代わる幹事会が、六月十五日（土）、藤沢校舎で行われました。

志村英世氏（四期）を議長に選出後、通常の総会議事である過年度事業経過、決算の報告及び新年度の事業計画・予算が慎重に審議され、承認されました。

事業としては、「農学校友会名簿」が作られ、会員各位に送られました。また、農学校友会の発展に長年尽力され、今春、事情により退職された佐々木弘康先生に、校友会より記念品が送られました。

幹事会後、新学科主任の坪木良雄教授から農学科の現状報告があり、学内人事と新しいカリキュラム・コース制について詳しい報告がありました。

（勝野武彦）

紫友会

◇農芸化学科◇

事業計画などを承認

平成2年度総会懇親会開く

紫友会平成二年度総会が平成二年十一月十七日（土）、本学東京校舎において開催された。

総会においては茂澤 昇会長のあいさつの後、山本一彦事務局長より平成元年度の事業経過、並びに平成二年度の事業計画についての説明、また、長谷川功事務局員より平成元年度の会計報告、平成二年度の予算案についての説明があり、いずれも承認された。

その後、懇親会は東京校舎学生食堂において円田学部長、庄川学部校友会長をはじめ、学部関係の多数の来賓の方々にもご臨席いただき、多数の会員とともに盛大に行われた。

東京校舎食堂での懇親会

新事務局長に長谷川氏 山本一彦事務局長は勇退

長年紫友会のためにご努力下さいました山本一彦事務局長をはじめ能山龍明、有賀豊彦、奥泉武、桜井英敏、中鴨睦安の5名の事務局員が、このたび紫友会事務局を勇退されることになった。長年の紫友会に対するご尽力に対して心よりお礼を申し上げます。

山本事務局長の後任として長谷川功氏（昭和四十四年卒）が選出され、以下事務局員も左記のように交代し、若返りをはかった。

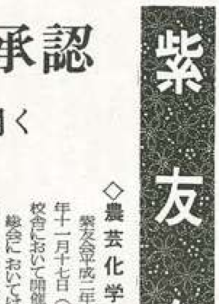
事務局長　長谷川 功
庶　　務　加藤 順
会　　計　高橋令二、熊谷日登美
名　　簿　隅田裕明
会　　報　関泰一郎、吉田滋樹

何分若い事務局ではあるが、会員の皆様のご指導、ご協力の下、紫友会の発展に努力していく所存である。

期待される米国での成果 加藤専任講師が無事帰国

加藤 順専任講師（微生物化学研究室）は、昨年四月より米国ロサンゼルス州にあるシティ・オブ・ホープ・ベックマン研究所に留学中であったが、このたび一年三ヵ月にわたる留学生活を終え無事帰国された。

米国での研究成果が今後の研究教育活動、学生指導に役立つものと期待されている。



留学中の加藤 順講師

主任教授に矢崎教授

新体制でスタート

農芸化学科の近況

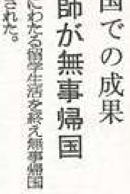
本年四月より農芸化学科は主任教授に矢崎仁也教授（植物栄養生理学）、大学院専攻主任に石井譲二教授（食品化学）が就任され、新しい体制でスタートした。

農芸化学科は現在一年次百六十五名、二年次百五十八名、三年次百七十八名、四年次百三十名の学部学生に加え、二十六名の大学院博士前期課程（修士）の学生が在籍しており、これに対し、教授八名、助教授二名、専任講師四名、助手四名、副手二名の計二十名の専任スタッフが一丸となって指導にあたり、活発な研究・教育活動を行っている。

四年次及び修士二年次学生の就職状況は順風満帆である。これは空前の売り手市場という背景によるものでもあるが、学生および教職員の日頃の努力に加え、諸先輩の社会で築かれた実績による「日大農化」の高い評価によるものと考えられる。

学科人事

四年間にわたり当学科に副手として勤務された田中純子さん（昭和六十二年卒）は、本年三月三十一日をもって退職され、斎藤義典氏（昭和六十三年卒）と六月にご結婚された。末永いお幸せを心よりお祈りいたします。



廣澤副手

また、田中さんの後任として四月より廣澤明美さん（平成三年卒）が採用され、学生実験、学科事務等に張り切って活躍されている。

室岡治義教授退任記念会のお知らせ

室岡先生は来春三月定年により退任されることになりました。

先生は三十二年間にわたり当科および応用生物科学科の新設、発展に尽力されてこられました。長年のご苦労に感謝して、教え子達を中心に先生の退任記念会を平成四年三月七日（土）十五時より十七時まで、藤沢校舎にて開催いたしますので、多数の皆様のご参加をお待ちいたしております。

連絡先＝応用生物科学科 中鴨睦安（電話 〇四六六－八一－六二四一）

退任記念会発起人一同
代表 有賀豊彦、中鴨睦安

（関 泰一郎、吉田滋樹）

角笛会

◇獣医学科◇

新会長に日比野氏

事業計画など承認

藤沢校舎で総会開く

藤沢校舎で開かれた角笛会総会

平成三年度角笛会総会が去る六月十五日、藤沢校舎において開催された。出席者六十九名、委任状提出者は三十四名であった。

総会は物故者への黙祷、田中延吉会長のあいさつののち、議長に山元薇進 宮崎県 支部長が 選出され、議事に入り、平成二年度事業報告、収支決算報告および監査報告がなされた。次いで平成三年度事業計画、収支予算案、役員の改選および付帯決議 などが 審議の上、承認された。

平成三年度の事業計画は角笛会活動の活性化、会報の発行、卒業生への記念品贈呈、平成三年度総会開催、役員会開催、および第二十九回東京獣医畜産学会開催支援などから成っている。

役員の改選により、新会長には日比野次郎氏（東京・十四年卒）、副会長には白井弥氏（大学・三十二年卒）、若尾良知氏（山梨・三十一年卒）、大河保治氏（千葉・二十二年卒）の三氏が選出され、承認された。また田中延吉氏（前会長・十九年卒）と、大熊俊一氏（埼玉・十一年卒）が顧問に、宮田萬司氏（新潟・十九年卒）が相談役に、川口武志氏（東京・二十四年卒）、細川勝人氏（山梨・二十年卒）、吉田仁夫氏（大学・三十四年卒）の三氏が常任理事に、山本英一氏（和歌山・十七年卒）、大内賢二氏（福島・十六年卒）が理事に、小暮晃夫氏（東京・二十四年卒）、佐藤敬氏（大学・三十二年卒）、風田豊造氏（茨城・二十二年卒）が監事に推薦された。

なお総会の席上、角笛会活動にご尽力された前和歌山県支部長の岩瀬恒三氏、田中会長から感謝状と記念品が贈呈された。

総会終了後、教職員食堂において懇親会が行われ、茂沢農獣医学部校友会副会長を初め、多数の来賓および会員が出席して総会を無事に終了した。

井上教授 就職指導担当に

家畜病院長に長尾教授が

── 学科の近況 ──

獣医学科では平成三年三月から四月にかけて、左記のような人事がありました。

井上勇教授（医動物学）が学部執行部就職指導担当に、長尾壮七教授（獣医衛生学）が日本大学家畜病院長に、それぞれ三月二十一日付で就任されました。

また、四月一日付で望月公子教授（実験動物学）は大学院獣医学専攻主任に再任され、白井弥教授（獣医病理学）は獣医学科主任に就任されました。

難波信一助手（獣医第二内科学研究室）、藤田美恵副手（医動物学研究室）、小島千恵副手（獣医生理化学研究室）が、三月三十一日付で退職されました。

新任としては、四月一日付で、雨森隆助手（昭和五十七年三月、日本大学大学院獣医学研究科博士前期課程修了・Phd）が獣医第二内科学研究室へ、森友忠昭助手（平成二年三月、日本大学大学院獣医学研究科博士後期課程修了・獣医学博士）が魚病学研究室へ、大場智子副手（日大拓植学科卒）が獣医生理化学研究室へ、三日市章子副手（日大農学科卒）が医動物学研究室へ、それぞれこられました。

また四月一日付で、獣医内科学の吉田仁夫助教授（三十四年卒）が教授に、獣医病理学の佐藤常男専任講師（五十五年卒）が助教授に、獣医解剖学の木村順平助手（五十五年卒）が専任講師に昇格されました。

ワシントン州立大学で 夏季実習

臨床単位として認定される

米国ワシントン州立大学獣医学部での夏季実習が、今年度より両校の単位互換に基づき、臨床実習の単位として認定されることになりました。

今回は八月二日から二十二日の日程で、引率者は白井弥獣医学科主任教授を団長とし、潘 英仁助教授および木村順平専任講師の三名で、参加学生は六年生十三名、五年生二十名の計三十三名でした。修了式には山澤新吾学務担当および渡辺操事務長が出席しました。

恒例の牧場実習

北海道中標津町ほかで

獣医学科二年生百三十七名は、平成三年七月十八日から約三週間にわたり、北海道中標津町を始め日高、八雲など六ヵ所で恒例の牧場実習を行いました。

引率は武石昌敬教授、津曲茂久専任講師、大場茂夫専任講師および高木香助手の先生方です。

新入生の歓迎会

楽しいひとときを過ごす

恒例の獣医学科新入生歓迎会が四月二十六日授業終了後に藤沢校舎学生食堂で行われました。教員との懇談、農獣医学部管弦楽団有志とフォルクローレ合奏団による演奏およびビンゴゲームなどが上級生の協力を得て行われ、楽しいひとときを過ごしました。

獣医学科新入生の歓迎会

東京獣医畜産学会開催

11月10日に藤沢校舎で

第二十九回東京獣医畜産学会（担当学長・佐藤敬教授）が、平成三年十一月十日（日）午前九時半より農獣医学部藤沢校舎で開催されます。今回は一般講演および教育講演が企画されています。

多数の先生方のご参加をお願いします。

（佐藤常男）

満喜葉会

◇畜産学科◇

満喜葉会役員会を開催

藤沢校舎第一会議室で

平成三年五月十九日十一時より学部藤沢校舎第一会議室において平成三年度第一回役員会が開催された。

理事会は会長あいさつの後、会則にしたがって会長を議長とし議事に移った。

①平成二年度経過報告、事務局宮原晃義氏より事業並びに経過報告がなされ承認された。

②平成二年度満喜葉会会計報告事務局丹羽美次氏より一般会計決算報告、特別会計決算報告があり続いて会計監事井上貢夫氏より監査結果について報告されたのち若干の修正を経て承認された。

③平成三年度事業計画、事務局宮原晃義氏より事業計画案の説明があり承認された。

④平成三年度一般会計、特別会計予算、事務局丹羽美次氏より予算案が提案され承認された。

新入生歓迎会開催

平成3年度の畜産学科新入生（満喜葉会準会員二百三名）の歓迎会が五月十九日（日）、藤沢校舎で開催された。これは、毎年畜産学科と満喜葉会が共催し、畜産学科学術研究部の協力によって実施されているもので恒例の行事となっている。当日は天気にも恵まれ、ソフトボールの試合で汗をながした後、学部第二食堂で懇親会が行われた。懇親会は学科主任姉野教授や木村満喜葉会会長、一年次担任森地教授によるあいさつの後、宴となった。また、優勝チームの表彰、個人賞などの発表もあり、学年、年齢を忘れて楽しいひとときを過ごした。

学科の動き

新任教員の紹介

長谷川理恵副手

長谷川理恵副手　昭和四十一年生まれ、平成元年畜産学科卒業。家畜飼養学第二研究室所属。長谷川さんは大学院関係の事務、家畜飼養学実験、飼料学実習などを担当されます。

田中淳一助手が退職

田中淳一助手は昭和五十六年畜産学科を卒業後、日本大学大学院に進学され、高知医科大学を経て平成元年より畜産学科助手として飼料学実習などを担当しておりましたが、本年三月三十一日をもって依願退職されました。なお、同氏は現在、埼玉医科大学生理学教室に転出、勤務されております。今後も一層のご活躍をお祈りいたします。

高田裕江副手も退職

昭和六十二年四月より畜産学科の副手として実験・実習・学科事務などにご尽力されておりました高田裕江さんも、一身上の都合により退職されました。

今後も健康で、新たな分野でのご活躍を祈念いたします。

カリキュラム大幅改定

来年度から実施の予定

畜産学科では、平成四年度より実施を予定している新カリキュラム案を、本年五月末学部に提出した。

この改定案は昨年来検討を続けていた学科カリキュラム検討小委員会の答申をもとに、学科全体で慎重に討議・検討をかさねたもので、大幅な改定となっている。今回のカリキュラム改定の主眼は、

①バイオテクノロジーをはじめ、近年急速に発展を続ける農学・生物学関連分野の中で、畜産学関連領域も大幅に拡大している。

②地球・自然環境の保護保全に対する重要性が広く認識されるようになって、野生動物を含む哺乳類・鳥類などの動物資源に関する研究が求められている。

③地球の生態系に及ぼす農業・畜産業の影響（水田や反芻家畜の第一胃から発生するメタンガスが地球温暖化の一つの原因になっているとの説など）が指摘されるようになるなど、従来とは異なる視点の研究が必要になるといった学問的、社会的要請に答えるための第一歩と位置付けられよう。

この様に、畜産学関連領域が大幅に拡大する中で従来の『畜産学』の持つイメージと『新しい畜産学』の教育内容が乖離するのではないかといった問題も提起されている。

今回のカリキュラム改定は、本年度より改定を行った農学科及び昭和六十二年度に増設された応用生物科学科を除く農獣医学部全般にわたるものであるため、現在、学部において学年制の在り方、学科間の単位互換、教養と専門教育の連携強化、セメスター制の導入などについて総合的な調整が行われている。

現代は多様性社会などと称されるように、人びとの要求・価値観は多岐にわたり、畜産学科に入学される新入生諸君の志望理由や興味、将来への希望なども多様化する傾向にある。

今回のカリキュラム改定により学科の果たすべき社会的責務や学生諸君の要望に、よりきめ細かい対応が可能になるものと期待されている。

（丹羽 美次）

いもづる会

◇食品経済学科◇

平成3年度 総会を開催 佐藤前会長の逝去を悼む

いもづる会創設から四十余年間にわたって、名実ともに会の発展に情熱を注いでこられた佐藤弘一前会長が、本年二月逝去されました。

佐藤前会長はいもづる会会長として、また学部校友会長や日本大学校友会副会長も歴任されるなど校友会活動や学部の発展に大きな足跡を残されました。会員一同衷心よりお悔み申しあげるとともにご冥福をお祈り申しあげます。

佐藤前会長への黙祷にはじまった平成三年度の総会は、六月一日（土）午後四時から三軒茶屋銀座アスターで開催された。平成二年度の活動状況報告によると、いもづる会の会員数は今年三月卒業の百七十三名を加えて五千六百二十二名となっている。

会の主たる活動としては、毎年六月第一土曜日開催の総会・懇親会、三〇周年記念基金による表彰（今年度受彰者なし）、三茶祭における校友接待、他分会との交流、学科の新入生歓迎会への協賛、学科との共催で実施する就職指導講演会、企業研究相談コーナー、学科ソフトボール大会への協賛などが挙げられる。今年度とくに就職指導講演会、企業相談コーナーを四月の連休前に繰り上げて実施したところ、五十余社の企業と延べ三百名を越える学生が参加し、就職戦線の加熱ぶりがうかがわれた。

懇親会であいさつする高橋学科主任

総会であいさつをする三木会長

歓談するOB・OGたち（三軒茶屋・銀座アスターで）

六月一日午後六時より庄川学部校友会長、門田学部長、山澤学務担当はじめ多数の来賓のご列席を得て、懇親会が開催された。

冒頭、三木会長より校友会活動の意義、高橋学科主任より近年学科の教育・研究活動がより食品経済に純化してきていること、また長期的視点に立った人材育成や国際化への対応と、留学生問題への取り組みなどについて、考え方の一端を述べられた。また、門田学部長は、現在学部が移転問題をはじめ解決しなければならない重要な課題をかかえており、学部発展のために、校友の理解と協力が不可欠であるとの認識を示された。

会はなごやかな雰囲気のうちに進展し、午後八時過ぎ角井副会長の閉会のあいさつで幕を閉じた。

《学科の近況》学科主任に高橋正郎教授が就任

平成三年四月一日より、食品経済学科の第七代学科主任に高橋正郎教授が就任された。

高橋教授は東大から農林水産省の研究機関を経て七年前に本学に着任され、本学ではマーケティング研究室において、市場論の講座を担当されているが、食品経済学の確立にむけて先生の手腕に期待が寄せられている。

新カリキュラム案作成 学科名は当面"不変"を確認

農獣医学部では、目下学部をあげて教養課程を含めたカリキュラム改正に取り組んでいるが、当学科でも高橋新主任のもと、高坂委員長を中心に新しいカリキュラム案の作成に着手し、六月末の科内会議で学科案を決定・承認し、学部に提出した。

今回のカリキュラム改正の趣旨は、①開講単位数の削減（現行一五八から一四六へ）②少人数教育の充実とその多様化③食品経済学の体系的教育への純化④学生の科目選択の幅を拡げ、また担当教員の交代が円滑におこなえるよう、選択科目を2単位に分割するなど学生と教員の負担を軽減し、より専門的な研究・教育の充実・強化が図られるよう配慮されている。

新しいカリキュラムは、基礎教育科目、共通部門、食品資源経済部門、食品産業経済部門、食品企業経営部門、食品流通経済部門、食生活消費経済部門、食料政策部門から構成されており、それぞれの部門には経済原論Ⅲ（マルクス経済学）、日本農業論、多国籍企業論、産業組織論、食品企業経営論、広告論、消費者行動論、消費者政策、経済法、企業法などの新しい科目が配置されている。

なお、新カリキュラム案は、学部レベルでの調整を経て文部省に提出され、平成四年から実施の予定である。

また、カリキュラム改正に関連して、学部では、学部名称の変更や学科名変更が検討されているが当学科では、当面現在の学科名称〈食品経済学科〉を変えないことを科内会議で確認した。

（下渡敏治）

林学科校友会

◇林学科◇

伐採から植林まで 期待される若い林業屋

期待が大きい日大グループの若い林業屋

静岡県龍山村は、森林面積率九三%のわが国を代表する林業地域である。ここの森林組合に就職した平野暁氏（旧姓石川・昭和五十七年三月卒第三十一期）は、東京出身、佐々木先生の研究室で林業にめざめた。

卒業後は、自分で林業をやりたい一心で、龍山村森林組合を選んだ。その後、地元で製茶業と機械店を営む平野家に養子入り、その後も森林組合で活躍したが、自分達で林業をやりたい気持ちに変わりはなく、このほど天竜フォレスター有限会社（代表今井保隆・神奈川出身、同三十一期）を設立させた。

設立に際しては、大変な苦労があったが、同じ龍山地域で活躍されている青山有一氏（二十二期）遠藤誠氏（二十八期）らに協力を得、昨年六月に同社スタートさせた。

事業内容は伐採から植林までと手広いが、一年目は、多少の赤字とか。しかし地元では"日大グループの若い林業屋"と期待が大きく、新聞にも大きく書き立てられた。今井代表は、今は自分達の足腰をしっかり固めたい、将来は若い後継者育成もめざしたいと、目を輝かせている。

若き"メカトロ"部隊発進

静岡県森連は、平成二年度より高性能林業機械を全国に先駆け導入した。高性能林業機械とは、これまで人力にたよっていた作業を文字どおりメカニカルに機械にやらせようとするものである。この機械オペレーター集団をメカトロ部隊と呼び、現在五名がメカトロ部隊オペレーターとして活躍しているが、その集団の若き中心が高橋雅弘氏（三十期）である。

高橋氏は塩沢先生の研究室を卒業後、静岡県森連へ就職し、若い力を地元林業の発展のために存分に発揮されている。静岡県森連では、高性能林業機械と活力あふれるオペレーター集団との組み合わせによる新しい機械化林業のリーダーとして期待が大きいと話している。

若きメカトロ部隊の面々

青梅に本格的ログハウス

青梅市大久野郵便局は、このほど青梅のスギ丸太を使った本格的ログハウス作りに新築された。この地の羽生哲史氏（十期）らが中心になり、完成したもので、羽生氏自らも自宅の離れをログハウス作りにした。

丸太はもちろん羽生氏所有の山林産のもの、同家は代々山林経営を行ない、古くからこの地に生産されるモミ材を利用した卒塔婆作りは全国に知られている。また同氏は地元でも幅広く活躍され、林業のほかにも地域の要職を引き受け、人望も厚い。ログハウス作りや卒塔婆に関することは気軽に問い合せて欲しい。

ログハウスの前に立つ羽生哲史氏ご夫妻

☆学科の動き☆

《入学・卒業》本年度林学科への入学者は、昨年とほぼ同数の百五十八名であったが、出身地別にみると、これまでの東京圏八割に対し本年度は同七割となった。地方出身者に大いにがんばってもらいたい。

また担任の片岡、本江の両先生指導の下、五月に行われた学部運動会では、みごと五年連続優勝を飾り、結束力の強さをみせた。なお、昨年度卒業生は百六十四名で公務員二十五名を筆頭に、特に林業関係への就職が目だった。

《人事》長年藤沢校舎の演習林事務所へ勤務された細野秀夫技手は、このほど定年により退職された。また、林産化学の宮崎信教授が定年退職され、後任に京都大学より樋口隆昌教授着任された。

森雅之氏ら7名に 林学科校友会長賞を授与

鹿野会長と受賞した7人

平成二年度林学科校友会長賞の授与式が、三月二十五日の卒業式後に行われ、森雅之氏（神奈川県庁）、佐藤充氏（新潟県庁）、山口勝広氏（財法林業土木施設研究所）、浦野充代さん（新潟県庁）、桑山美樹さん（㈱カンキョウ）、河野恵里さん（長野県庁）、洪俊傑氏（大学院進学）が、各コースの代表として、鹿野会長より賞状ならびに記念品を受け取った。

◇事務局から◇

本年度は、総会の年にあたり、十月八日に日大会館で開催されます。多数の参加をお待ちしております。また、長い間懸案となっていた会費は、終身会費（一万円）制とすることが幹事会で承認され、総会にはかられる予定です。林学科校友も四千三百人を越え、ますます会員の相互親睦が必要な時期になりました。スムースな事務局対応に皆様のご理解とご協力をお願い致します。なお、名簿整理も学科のパソコンを借用しながらも員会全員のデータを打ち込みました。住所等変更のあった場合には、事務局までご一報下さるようお願い致します。

（井上公基）

桜水会

◇水産学科◇

水界浄化のために情熱と夢の持続を

水産学科卒業の皆様、世界が変革しつつある時代ですが、水産で学んだその次元を思い出の中に収納しないで、情熱と夢を持続させ「水界浄化」のために力を出していただきたい。夢を失わなければ、ニホンウナギの産卵場所を東大海洋研が確定（一九九一年七月）したように実現されるのですから。

二十一世紀に生き続けるために目先にとらわれず、心入れをした教育が出来ることを祈りたいものです。

教員人事 3名の教員が昇格

三名の教員が昇格されました。教育と研究にますますご活躍されることでしょう。

望月 薫（十一期）　助教授↓教授

杉田治男（二十四期）　専任講師↓助教授

松宮政弘（二十七期）　助手↓専任講師

新入学生からはすべて藤沢校舎

水産学科の動向

水産学科は馬場校舎、東京校舎で多くの学生が育ち、現在社会で活躍しておりますが、平成四年の新入学生からすべて藤沢校舎で教育することが決定されました。東京校舎と違い空気も良く、緑も多く動物達もいきいきしています。藤沢校舎は十号棟と呼称し、林学科と同じ屋根の下に入る予定となっております。しかし、まだ着工していませんが、完成のあかつきには皆様のお立ちよりをお待ちしております。この学科移転はカリキュラム改正とともに水産学科の大転機で、これを機に新生水産学科として古き悪しき慣例を除去し

〈学生の動向〉

大学院生16名 各研究室で成果あげる

大学院生について

水産生物学（東教授・広瀬助教授）修士課程一年四名、同二年一名

水産生物化学（西出教授・内田助教授）修士課程二年三名

資源環境学（円田教授・高野非常勤講師）修士課程一年三名、同二年二名

水産増殖学（出口教授・杉田助教授）修士課程二年一名

水産利用学（望月教授）修士課程二年一名

漁業学（浜田教授・余座助教授）修士課程二年一名

院生は左記の通り計十六名で、それぞれの研究室で成果をあげ、学会で公表しています。修士課程二年の学生は公務員、会社の研究室など、水産学で研究したことが発揮できそうな場所に、就職も決定しています。

大学院の場合は研究室名でなく講座名になっておりますので、教員は大学院担当者に限りました。

◇おくやみ◇

水産学科教員として永くお世話になりました高橋豊雄先生が急性心不全のため平成三年四月九日ご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたしましょう。

地曳網を行い、楽しいひとときを過ごす

魚市場の見学実習

学部の学生

地曳網で有意義なひととき 今年も留学生が入学

今年も留学生（中国、台湾）が入学しました。一年の入学生を対象に行うオリエンテーションでは江の島に近いことを利用し、地曳網を行い、自然の中で教員・学生ともに話し合い、楽しい有意義なひとときをもちました。このような行事は久し振りで、水産学科らしいものでした。

桜水会創立四〇年となる！

桜水会創立四〇周年記念の行事を十一月に行い、その折に総会を開催致しますので、卒業生の皆様のご出席をお願い申しあげます。

（広瀬一美）

工学会

◇農業工学科◇

理事会・役員会を開催

—全役員が再任—

平成三年六月十五日、日本大学農獣医学部東京校舎において理事会・役員会が開催された。

会則により一川宏也会長が議長に選出され、議事が進行された。

①平成二年度経過報告に関しては、事務局長・辻 厚志氏から報告され承認された。②平成二年度一般会計決算報告に関しては、事務局・川西啓文氏から報告され、その後、小山雅章氏から会計監査の結果報告されて承認された。③平成三年度事業計画案とその内容説明が事務局長・辻 厚志氏より、また平成三年度一般会計予算案が事務局・川西啓文氏から提案され、それぞれ承認された。

また、本会の役員任期は三年であることから、第十期役員の選出について審議され、その結果、第九期役員全員が再任されることになり、満場一致で承認された。役員は次の方々である（敬称略）

会長・理事＝一川宏也▽副会長・理事＝古川宏一▽副会長・理事＝村田 昇▽庶務理事＝斎藤公三▽会計理事＝前畑伸光▽業務理事＝大川武夫▽理事＝岩川重雄、戸崎紘一、新藤 薫、酒川和男、馬目雄一、玉川雅仁、図師健二また、会計監査 には 田中 健夫、小山雅章、事務局長には辻厚志が推薦され承認された。

役員会

新時代に向けカリキュラムと研究室の名称を変更

本学部では、文部省の指導により卒業単位数の大幅な縮小、それに伴いカリキュラムの変更が進められ、農業工学科ではこれによって現行の百三十六単位から科目の統廃合、時代に即応した科目の開講などの検討を含め、百二十六単位に縮小されます。また、これと並行して一部研究室の名称変更も検討され、平成四年度から新生農業工学科がスタートする予定になっております。なお、研究室名と教員配置は、以下のとおりです。

農地整備学研究室＝白石勝己助教授・斎藤公三専任講師

水資源利用工学研究室＝林 直樹教授・石川重雄専任講師

土木施設工学研究室＝山野隆康教授・辻 厚志助教授・青木正雄専任講師・羽村文乃副手

地域保全工学研究室＝千葉 豪教授・河野英一助教授・宮田祐子副手

農村・建築計画学研究室＝青木志郎教授・糸長浩司専任講師

農業施設学研究室＝長島守正助教授・川西啓文専任講師

生物生産機械学研究室＝山澤新吾教授・世良田和寛助教授・宮本眞吾専任講師

食資源利用工学研究室＝木村進教授・富田節雄専任講師

さらに、現在学科のより充実を図るため、大学院後期（博士）課程の設置に向け鋭意努力しております。

2回の就職対策懇談会を開催

平成三年二月八日に三年次学生、五月二十八日には四年次学生を対象に、二回の就職対策懇談会が開催されました。

講師には、一川宏也氏・㈱翔研、大前靖弘氏・日建工学㈱、菊池 昶氏・石川島芝浦機械㈱、村田 昇氏・中央開発㈱、宮脇博光氏・鹿島建設㈱、金井義晃氏・住宅都市整備公団、新藤 薫氏・神奈川県庁、田中健夫氏・㈱埼玉総研、林正美氏・太平工業㈱、板倉 香氏・㈱長大、内藤泰征氏・小沢コンクリート工業㈱、大塚生美氏・総合設計研究所、小林 純氏・㈱日立情報ネットワーク、法橋直孝氏・㈱測機舎の方々をお招きし、講演が行われた。

各講師は、業界の将来動向について、また、それぞれ現在勤めておられる会社・職場のPRを含め、さらにはご自身の体験と現在の立場から、就職活動に当たっての心構えについて講演された。

その中で、とくに、職種の選択においては自己の適性・性格に合うかどうかを十分に検討して、しかも若者らしくいきいきと自己主張をし、悔いのない積極的な就職活動を行い、自己の将来に望むよう力説された。

就職懇談会

30周年記念に向け着々準備

工学会は昭和三十八年に設立されて以来、二十八年の歳月が流れ平成五年には満三十歳を迎えようとしております。

会員数は、約四千名に達し、それぞれ各界で活躍され、名実ともに大きな勢力になりつつあります。本会では、校友の親交を深めより絆を強めるとともに本会の活性化を図り、二十一世紀へ向けて新たな飛躍・発展することを願って、平成五年五月京王プラザホテルにおいて記念式典を盛大に執り行うことになりました。

すでに準備委員会を発足させ、委員長に古川宏一氏（副会長）を選出し、着々準備が進められております。その節には、万障お繰り合わせの上ご参加いただき、会を盛り上げて下さるようお願いいたします。

本学科に2名の外国人研究留学生

農業工学科には、本年四月より、以下の二名の外国人研究留学生が見えられ、それぞれ指導教授のもと研究に励んでおられます。

林 淵煌氏（中華民国 政府行政院農業委員会簡任技正、期間＝平成四年六月、研究課題＝農村整備の手法に関する研究、指導＝長島守正助教授）

内ケ崎万蔵氏（ブラジル国、JICA留学生、期間＝平成五年三月、研究課題＝耕うん・整地機械の基本設計に関する研究、指導＝山澤新吾教授）

国際化時代の中にあって、農業工学科においても、今後増えることが予想され、その充実した受入れ態勢の整備が要求されてきております。

山澤教授が日本学術会議会員に

農業工学科・山澤新吾教授は、本年七月に日本学術会議会員に選出されました。

本組織は日本のあらゆる部門の科学者によって構成され、科学及びその応用に関し内外における研究を促進奨励する目的で設置されているもので、非常に権威ある機関です。

先生の、今後ますますのご活躍をご期待し、会員一同心よりお祝い申しあげます。

石川専任講師が学位を取得

石川重雄専任講師は、約十年にわたる研究成果をまとめ、本年三月「干拓地土層の構造発達と農地化過程に関する研究」により、岡山大学より学術博士の学位を授与されました。今後のますますのご発展を期待します。

学科だより

【入学・卒業】　現在の華やかな産業の中、また農産物の自由化によって、わが国の「農業（第一次産業）環境」は、年々厳しさを増しております。しかし、この中にあっても、本年度の農業工学科への一般受験者数は千百四十一名と高倍率でありました。これに一般推薦と付属推薦を含めて、今春百四十二名の新入生を迎えました。卒業後の進路は多種多様でありますが一人でも多く専門的な分野で活躍出来るよう教員一同努力いたしております。また三月には百五十八名の卒業生を送り出し、新たな校友となりました。就職も大変順調で、各方面での新校友の活躍が期待されます。

【学科関係】　農業工学科では本年四月より主任教授として山野隆康教授が、また大学院専攻主任に千葉 豪教授がそれぞれ選出され、農業工学科の発展のためご尽力いただいております。

【人事関係】　平成元年四月から農業工学科に副手として勤務されていました高橋由紀さんは、本年三月三十一日をもって退職されました。今後のご発展をお祈りいたします。

また、その後任には、農学科を卒業された宮田祐子さんが副手として採用されました。学科の華として、がんばっておられます。

宮田祐子副手

訃報

前教授佐々木次郎先生は平成三年六月二日にご逝去されました。享年七十八歳。先生には、約六年間学科の発展と後進の育成にご尽力いただきました。心から感謝するとともに、ご冥福をお祈り申しあげます。

（石川重雄）

食品工学会
◇食品工学科◇

創立25周年記念式典 準備進む
10月19日 日本学会館で

平成三年十月十九日(土)、日本大学会館にて食品工学会の創立二十五周年の記念式典が開催されます。

理事会では、平成二年より準備のため、次の小委員会を作り準備を進めてまいりました。各小委員会の内容を紹介します。

記念事業検討委員会
(委員長 神貫駿氏・一期生)

記念誌(名簿部分を除く)発行のための企画、編集などを行いました。また、今回の記念事業の一つである分会名の愛称変更の取りまとめも行いました。新愛称名は、記念式典で発表されます。

名簿委員会
(委員長 荒井安雄氏・七期生)

記念誌に掲載するため、四千三百名弱の会員名簿の新規入力や訂正を行いました。また、今回、会員名簿を高度に利用するため、コンピューターにもデータを入力しました。今後は、研究室ごとの名簿や各期ごとのDM打ち出しが可能となります。住所変更の折には必ず事務局までご連絡ください。
(記念誌の綴じ込みハガキをご利用ください)

協賛広告募集委員会
(委員長 大瀧博久氏・六期生)

記念誌は準会員の在校生にも配布されます。このため、広告は就職案内ともなります。今回は、広告費を大幅に値下げして、より多くの方に参加いただけるよう努力しました。

祝賀会委員会
(委員長 奥村康佳氏・七期生)

祝賀会の企画及び当日の指揮進行をお願いしました。

学科内の動向

☆竹永先生が専任講師に

食品理化学研究室の竹永章生助手(十六期生)が、本年四月専任講師に昇格されました。先生のますますのご活躍をお祈りいたします。

☆フレッシュ・ウーマン二人

稲崎副手

和田副手

本年四月、稲崎多佳子さんと和田幸子さんのお二人が、食品工学科に副手として採用されました。

お二人は、本年三月に食品工学科を卒業された二十六期生です。稲崎さんは食品製造工学研究室で和田さんは食品化学工学研究室でご活躍いただいております。
(千野 誠)

訃報

前教授藤井 久先生が、平成三年二月二日ご逝去されました。享年八十二歳。先生は、昭和五十年四月に本学科に教授として就任されました。昭和五十四年六月に定年退職されてからは兼担講師、非常勤講師として、長期にわたり学科の発展及び学生、大学院生の指導にご尽力いただきました。心よりご冥福をお祈り申しあげます。

25周年記念事業 委員の紹介

前号に引き続き、二十五周年記念事業委員五名の紹介をします。

なお、委員全員のお名前は、記念誌に記載されていますのでご覧ください。

①卒業期名(卒業年)②職業および仕事内容③学生時代の思い出④その他　(以下敬称略)

福原克治

①五期生(昭和四十五年卒)②(財)食品薬品安全センター勤務。食品衛生の理化学検査に関する研究、特にポストハーベストを含む残留農薬の分析法の開発や、食品中の残留検査などを行っています③私の学生時代は、日本全国、学園紛争の嵐が吹き荒れた時代でした。三年生の前期は、校舎にバリケードが張りめぐらされ、授業がまったくない不安な日々でしたが、思い起こせば懐しい時代です。四年間の学生時代ですが、とても貴重な時期でした④目下、卒業研究生(母校の学生でなく残念です)を相手に、食品中の残留農薬の消長について研究中です。次年度は、ぜひ母校の卒業研究生をと希望しているのですが。

角野政弥

①十三期生(昭和五十三年卒)②(財)東京顕微鏡院勤務。水質・食品・環境衛生検査など、学校で学んだ技術をいかして、検査業務を行っています③実験室でラーメンやコーヒーをビーカーで作ったりエタノールで果実酒を作ったりと学生時代はふまじめな実験生活でした④当財団は、市ヶ谷日大会館近くの本院と立川のセンターで、臨床・食品・水質・環境衛生などの検査業務および健康管理・診察および公益活動を通じて、広い意味での健康づくり(ヘルスプロモーション)を行っています。学校の技術が十分にいかせる仕事ですので、興味のある方、衛生相談などのある方は、本院までご連絡ください。(電話〇三-三二六五-一六〇一)

土岐理惠子

①十八期生(昭和五十八年卒)②リクルートシーズスタッフ勤務。現在、(株)安川電機製作所でワープロオペレーターとして働いています③なぜか他学部のサークルに入りびたりでしたので、あまりまじめな学生とはいえませんでした。いい友達に恵まれ(感謝してます)試験やレポートをなんとか切り抜けるという綱渡りをしていた私に副手のお話をいただいたときは、正直いってうれしい驚きでした④学生四年間、副手四年間と二倍お世話になり、学ぶ立場と教える立場の両方を体験させていただいたのは、私にとって大きなプラスになっています。二十五周年を迎え皆様のなお一層のご活躍を心から祈っております。

森嶋繁徳

①二十期(昭和六十年卒)②凸版印刷(株)パッケージ事業本部に勤務。エコロジーを重視した環境対応パッケージや、新素材を使用した機能性包材の開発を行っています③四年生になり研究室に配属されてからは、まるで学校で生活しているかのように、研究室で料理をしたり、何日も泊まり込んだりしたこと。そしてもうひとつ、大学院二年生のときに三茶祭で女装大会に出て特別賞をもらったこと④大学生時代にできた友達は、やはり勤務先も食品業界が多く、仕事をするうえでも友達に助けられたりしています。学生時代のコネって大切ですね。

松尾謙二

①二十四期生(平成元年卒)②明治ケンコーハム(株)に勤務。ハム・ソーセージの試作をはじめ、肉の基礎研究まで幅広い仕事をしています③学生生活を通して、大学院在学の思い出が一番印象に残っています。二年間に多くの先生方に近づくことができ、大変有意義だったと思っています④二十四期のみなさんに遅れること二年、会社とは違った束縛から離れ、充実した遊びにふける今日このごろです。

拓友会
◇拓植学科◇

事業計画など承認
平成3年度総会を開く

拓友会平成三年度の総会と懇親会は、六月二十二日(土)原宿の「南国酒家」において開催された。

総会は、庄川会長を議長に選出後、次の議題について審議し、いずれも原案どおり承認された。

第一議題＝平成二年度事業報告
第二議題＝平成二年度会計報告
第三議題＝平成三年度事業計画
第四議題＝平成三年度会計予算
第五議題＝総会・懇親会の拡大
会報などを通じて呼びかける
(詳細については「拓友会会報」16号を参照のこと)

以上で総会を終了した。

総会終了後、引続き行われた懇親会の席上、新学科主任遠藤教授より平成5年度から実施する予定のカリキュラムの改正作業について説明があり、さらに学部・学科名称変更の検討を始めていることについても、拓友の了承を求められた。

懇親会は、和気あいあいで、初めて参加した若い拓友のひとりは「先輩に就職先を紹介してもらい、来てよかった」と喜んでいた。

来年の総会・懇親会へのより多くの拓友の参加を期待している。

遠藤教授 拓植学科主任に
"有用な人材輩出に努力"

平成三年四月より拓植学科主任に遠藤治一教授が就任された。拓友会に寄せられた就任のあいさつの要約は次のとおりである。

「今回、拓植学科の主任として学科運営の責を担うことになり、前任の宮崎教授の後を継ぐものとして、その任務はきわめて大きいと緊張しています。

現在の日本の私立大学のおかれている状況は、十八歳人口の減少、大学経営の困難等、課題がたくさんあります。農獣医学部でもカリキュラムの変更、名称変更などが課題として登場してきています。

しかも、二十一世紀が目の前に迫ってきており、この新しい時代を目指して新しい研究・教育体制を作ってゆかねばなりません。

近ごろ、大学のあり方についてさまざまな意見がありますが、日本の大学の「甘え」の体質の指摘は、学生だけではなく教員にも向けられています。変革を恐れず"拓植する"気概を持って、我々拓植学科教員は、来るべき社会に有用な人材を輩出するために努力するつもりです。

皆様の心からなる支持をお願いする次第です」。

山沢新吾先生が 第15期日本学術会議会員に

拓友会の前副会長で農獣医学部農業工学科 教授の 山沢 新吾先生(五期)が第十五期日本学術会議会員に選出された。

今期は、九百十五の登録学術団体から推薦を受けた六百十八名の候補者の中から、新会員二百十名が選出されたが、第六部(農学系)の農業総合科学分野の会員として選ばれたものである。

先生は、日本国際地域開発学会(旧日本拓植学会)現会長で、同学会が推薦、立候補されたもので、同学会には、拓友も多く所属している。

山沢先生の会員当選をお祝いするとともに、現在農獣医学部学務担当という要職についておられるので、ご健康に一層留意されて、ますますご健闘されることをお祈り申しあげる次第である。

広瀬教授「磯賞」を受賞

拓植学科の広瀬昌平教授が、平成三年三月二十九、三十の両日、日本大学農獣医学部で開催された日本熱帯農業学会大会において、平成三年度「磯賞」を受賞された。

同賞は、熱帯農学研究と、熱帯農業発展への貢献に対して贈られる賞である。

今回の受賞理由は、広瀬先生の永年にわたる「キャッサバを中心とした熱帯畑作に関する調査・研究」の優れた業績が認められたものである。

今回の受賞に対し、心からのお祝いを申しあげるとともに、今後のご活躍をお祈り申しあげる次第である。

金沢先生が退職

金沢夏樹先生は本年七月二十七日をもって定年退職されました。

先生は、昭和五十七年四月二日付けで東京大学農学部から本学に就任され、退職まで九年間、農業経営学、国際協力論の教鞭をとられました。

また先生は、教壇に立たれるだけではなく、日本大学国際地域研究所の初代所長として本学の国際化に寄与されたほか、拓植学科主任、大学院農業経済研究科長、農獣医学部次長として活躍されました。今後もご健康でご活躍されることをお祈りいたします。

送別会の席上で学科からの記念品を受け取られる金沢先生

谷口副手が退職 後任は清水副手

昭和六十二年六月より、学科の事務を担当してこられた谷口千鶴副手が、本年三月三十一日付けで退職されました。後任として、清水順子さんが副手として採用されました。

清水副手は本年三月、拓植学科を卒業。拓植第2研究室で、図書・資財関係を担当されます。今後のご健闘をお祈りいたします。
(緒方行広)

むつあい会

◇短期大学部農学科◇

学科名を農学科に改称

夏も終わりさわやかな季節となりました。校友の皆様にはますますご健勝にてご活躍のことと思います。

本年も学部校友会報を通して、学科の動向およびむつあい会の近況をお知らせします。短大農業科は四月に学科名を農学科と改めました。

会長に冨沢寿樹氏

総会で新役員決まる

むつあい会の近況

平成3年度懇親会（藤沢校舎第2食堂で）

平成3年度の総会出席者

平成三年度の総会は、三月十六日（土）藤沢校舎第一会議室において開催されました。

議長に四期の福吉正利氏を選出し、平成二年度の一般経過報告、事業報告および会計決算報告、平成三年度の事業計画と会計予算案などが審議され、原案通り承認されましたが、今度の総会で会計年度を平成四年三月三十一日までとすることが承認されました。

役員改選について審議し、新役員が次のとおり承認されました。

▽会長＝冨沢寿樹▽副会長＝山本正義、楠元 守▽理事＝富樫利男、岡元哲朗、藤山信弘、鈴木勝春、鈴木 卓、山崎 博、江場秀造、吉川 誠、佐藤正臣▽事務局長＝斉藤忠雄▽名簿＝鈴木明夫▽会計＝広長 正▽庶務＝滝内一夫 松山良信▽監査＝横岡毅治、滝沢 章、以上の諸氏です。

総会終了後、滝沢 章氏（十四期・神奈川県専門技術員）による「ヨーロッパの農業を見て」と題してのドイツをはじめベルギー、オランダなど数カ国の農業の現状について、統計やスライドを映写しながらの講演があり、大変に興味深く有益な会となりました。

講演会終了後は、第二食堂において恒例の懇親会が開催され、学部校友会庄川会長、短大生活環境学科鈴木科長はじめ来賓および会員多数が参加し、旧交を温めるなごやかな懇親の機会となりました。

平成四年度の総会は、六月二十日（土）に予定しておりますので会員多数のご参加を期待しております。

中嶋紀子副手　平成三年三月三十一日付けで、退職されました。昭和六十二年四月より副手として勤務されるかたわら、女子学生のよき相談相手となっていただきましたが、今後は家庭人として生活することになりました。ご健康をお祈り申しあげます。

新人谷野安代副手　平成三年四月一日付けで、農学科の副手として勤務されることになりました。

谷野副手

谷野副手は静岡県浜松の出身で、この三月食品工学科を卒業、学生時代は鈴木教授のもとで指導を受けられました。今後ともよろしくお願いいたします。現在、環境生態学研究室におります。

本田美晴副手　農学科にて主に学生実験を担当していただきましたが、このたび生活環境学科に勤務替えとなりました。

〈学科の動向〉

在籍学生 百三十五名

学業や学外研修に励む

農学科の在籍学生数

農学科では、去る三月に四十期生五十名が卒業し、四月には七十五名（女子四十九名）の新入生を迎えました。二年次六十名（女子二十九名）と合わせて百三十五名が、生物生産と環境保全の二つのコースに分かれて学業に励んでおります。

一年次学生の学外研修

恒例の軽井沢研修旅行は、四月十九日（金）から二十一日（日）の日程で実施されました。この研修旅行は、学園生活全般についてのオリエンテーションを目的として、今回で十三回目となりました。新入生にとっては親睦を深めるよい機会ともなり、無事終了することができました。

昨年から研究室活動を特別演習として、より専門的な知識や技術が得られるように、専門の教員が指導に当っておりますが、各研究室には一、二年次合わせて二十名内外の学生が入室し、指導を受けております。また、昨年度より実施されております一年次の環境生態学演習（選択科目）は、昨年岩手県大東町にある本学岩手実習場で実施されましたが、今年は参加希望の学生が多く、宿泊施設の事情から、七月二十二日から二十四日まで藤沢校舎周辺で実施し、最終日の二十五日は各グループに分かれて、東京都神代植物公園、多摩動物公園、東京臨海水族園、熱帯植物館などを調査、見学しました。

〈教員の移動〉

佐藤昌介教授は学部へ

後任には斎藤教授が

佐藤昌介教授（生物学）　四月一日付けで、農獣医学部諸課程の専任として学部に移ることになりました。

先生は昭和五十一年から短大に勤務され、その間、農業科長として発展に努力されました。今後のご活躍をお祈り申しあげます。

斎藤忠雄教授（園芸学）　四月一日付けで、佐藤前科長の後任として、農学科科長に任命されました。斎藤教授は短大の卒業生です。校友のご支援を期待いたしております。

卒業生の進路と就職状況

三月に卒業された五十名の進路状況は、農獣医学部へ進学三十三名、就職六名、自営三名、専修学校二名で七割近くが学部編入です。

事務局からのお願い

本会も平成三年三月現在で四十期五十名を迎えて、会員数二千四百五十九名となりました。勤務先や住所変更、また結婚などで名前の変わった方は、お手数でも事務局までご連絡ください。

会報や名簿の発行、郵送料はすべて会員の終身会費で運営されております。未納の方は格段のご協力をお願いいたします。

最後に校友の皆様のご健康とご多幸をお祈り申しあげます。

（斉藤忠雄）

生活環境学科校友会

◇短期大学部生活環境学科◇

川瀬裕美さんが校友会会長に

校友も5期生合わせて330名

期待される今後の発展と活躍

短大生活環境科の校友の皆様には、お元気でご活躍のことと思います。平成二年二月十日、生活環境科校友会の設立総会ならびに懇親会を持ちましてから、早くも一年が立ちました。

本年度から、生活環境科は生活環境学科に名称が変更され、学科の教育目標が一段と充実したものとなりました。

食生活コースでは、食品に関して科学的視点から、問題を的確に分析し、経済的視点から、食料問題を検討していきます。

住環境コースでは、建築工学、建築デザインの視点から、生活しやすい住居を立案し、自然環境、地域社会、環境生態学、環境デザイン論の視点から、住環境を検討していきます。

昭和六十二年三月に第一期生四十三名を世に送ってから、平成三年三月の第五期生百十七名を合わせますと、校友は三百三十名になりました。新設学科としてスタートいたしました生活環境学科も、多くの校友を持つにいたり、校友会の今後の発展と活躍が期待されます。

本年度は、九月二十八日、午後六時三十分より、東京青山会館において、校友会総会、懇親会を開催いたします。校友多数の参加を期待しております。

さて、ここで、校友の皆様に、校友会役員をご紹介します。

会長　川瀬 裕美（一期生）
副会長　岡崎 祥子（一期生）　安彦 日津貴（二期生）
監査　横張 泉（一期生）　陣内 真紀（二期生）
常任幹事　石井 智美、長谷川千絵、飯島 美登利（一期生）、中野 志津代、杉之間 直美子、飯豊 智子（二期生）、沼倉 由佳、大栗 早枝子、笠井 由美（三期生）、小林 千夏、和栗 靖子、稲岡 美佳、中島 美津子（四期生）、鈴木 優彦、由比 真人、中川 佐知子、前田 美樹（五期生）
事務局長　飯塚 統先生
事務局次長　長谷川 千絵
会計　本田 智子（二期生）　河辺 留美（二期生）
理事　大川 いづみ先生　川瀬 裕美、岡崎 祥子
名簿編集委員　大川 いづみ先生
会報編集委員　坂本 都子

校友による企業説明会

先輩招き就職対策

卒業生の就職と進路状況

平成二年度の卒業生の就職および進路状況をお知らせします。

就職者は、食・住コース合わせて七十四名（六三％）で、大手建設会社、銀行、金融、保険会社、デパート、食品メーカー、官公庁など多岐にわたり、各自の活動の場を得ています。

学部進学者は、三十三名（二八％）となっており、その他、専門学校に進み、外国に留学し、自営業に従事し、また、家事手伝いに励んでいる者十名（九％）となっています。

本年度は、先輩諸氏をお招きし、就職対策ゼミを五月二十二日に開催し、校友の目黒 百合子（富士通）、関根 知子（大塚商会）、林 立子（大成プレハブ）、大生方 久美子（大成建設）、大熊 和歌子、橋本 潤爾（積水ツーユーホーム）、藤本 玲子（株・エコー）を講師に迎えて、企業説明と講師各位の過去の就職活動について、大変有意義なお話を伺うことができました。ゼミ終了後、先輩を囲んで、活発に質疑応答し、懇親会を持ちました。

学内の近況

学内の近況をお知らせします。

本年四月に、百三十三名（うち男子二十一名）の新入生を迎え、二年生（百十九名うち男子十八名）と合わせますと、生活環境科の在籍者数は、二百五十二名（うち男子三十九名）になります。

四月には、恒例の軽井沢研修旅行が実施され、新旧学生の相互交流と、教員と学生間の親睦が図られました。五月の学部運動会において、短大は、三位に入賞しました。また、昨年に引き続き、研究室活動は、特別演習として二単位が与えられ、食品学、環境科学、環境生態学および農業生物、園芸第一、園芸第二、住居学、情報処理、生活経済学、化学、社会学の各研究室で、年間計画に基づき研究が行われています。約半数の学生が、研究室活動に参加しています。また、短大独自のクラブとして、環境研究会、野草研究会、フォーシーズンスポーツクラブ、アウトドアライフクラブ（コロボックル）などがあり、学生たちは、いずれかに所属して学生生活を楽しんでいます。

事務局からのお願い

校友の皆様に、事務局からお願いがあります。

校友会終身会費の未納の方は、至急左記の口座に振り込んでいただきたく、ご協力お願いします。

郵便振替口座横浜四　七五九九　藤沢市亀井野一八六六　日本大学短期大学部生活環境科校友会あてに、お願いします。さらに、校友の皆様のご住所、職業、姓などに変更がありました折には、校友会名簿編集委員の大川 いづみ先生（振込み先住所に同じ、食品学研究室、電話〇四六六・八一・一六二四一、内線四八八）にご一報ください。最後に、校友の皆様のご健康と今後の一層のご活躍を、心からお祈りいたしております。

（坂本 都子）

支部だより

日本大学校友会神奈川県支部農獣医部会

10月26日総会・懇親会を
藤沢グランドホテルで

紫陵這遙歌を唱う校友

秋も深まってまいりましたが、神奈川県下の校友の皆様お変わりありませんか、お伺い申しあげます。

農獣医部会は、県内に在住する農獣医学部・短大農学科・生活環境学科の卒業の有志が語らい、昭和五十三年秋に発足しました。この会は年会費や終身会費も集めることのできない小さな団体であり今年で潰れるか、来年は大丈夫かといわれてまいりましたが、会員各位のご協力とご努力によりまして、今年も第十四回の総会を迎えることになりました。

昨年は十月二十日に、藤沢駅前の「藤沢グランドホテル」で百三十名の来賓・校友の出席を得て盛大に校友会総会・懇親会を開催することが出来ました。会員の皆様ご協力ありがとうございました。紙面を借りましてお礼申しあげます。

さて、平成三年度の総会・懇親会は、昨年と同じ会場で、左記により開催いたします。

今年の懇親会は、年配の方が多いので、長時間立ちっぱなしの立食形式をやめ、バイキング形式で行います。また、懇談中の余興として、昨年度好評だった高級果実類やハム・ソーセージなどのオークションを本年も催します。恒例の空くじなしの福引抽選会も行いますので、秋の一夜、同じ学部の卒業生達が一堂に会して酒を汲み交わし、旧交を温め、大いに談笑していただきたく存じます。

ご夫人同伴も大歓迎しておりますので、皆様お誘い合せのうえ、ご来場をお待ちしております。

（事務局）

記

平成三年度　総会・懇親会

日時　十月二十六日（土）十七時より

会場　藤沢グランドホテル
藤沢市朝日町十一
電話〇四六六―二三―一三一一

高知県支部

佐久間教授を迎え総会
よさこい祭りで日本大学踊り子と合流

日本大学校友会高知県支部（長崎収夫支部会長）総会が、八月十日（土）午後三時から、はりまや橋の近くにある「ホテル高砂」において、学部から佐久間教授の出席のもと、会員二十四名が参集して開催された。

まず、長崎会長からあいさつがあったあと、佐久間教授から、発展をつづける本学の近況が詳細に報告された。

そのあと、田島茂寿氏を議長に選出し、議事の審議に入った。

議案は、
①平成二年度の事業経過報告
②同収支決算報告
③同監査報告
④平成三年度の活動方針案
⑤同予算案
⑥その他

以上、六議案が提案され、六号議案の「その他」では、年会費の徴収について審議されたが、すべての議案を原案どおり承認して、総会を閉会した。

総会終了後、佐久間教授を囲んで、なごやかに懇親会が開かれた。

土佐の皿鉢料理で酒を酌みかわし、ときのたつのも忘れ、大幅に時間を超過し、校歌を斉唱後、午後七時三十分解散した。

当日の南国土佐は、"よさこい祭り"の真っ最中であり、鳴子の音を聞いて「鳴子踊り会場に繰り出そう」との声があり、出席者たちは鳴子踊り会場へ。

同会場では日本大学踊り子隊に出会い、思い出の一コマに…と、出席者と踊り子隊の記念写真も撮影した。

㊤高知県支部総会に出席した人たち（佐久間教授を囲んでホテル高砂で）㊦"よさこい祭り"の鳴子踊り会場で出会った日本大学踊り子隊との思い出の一コマ

山梨県支部

地方選で日大OB全員当選
相つぐ朗報で活動も活発化

山梨県下の日本大学農獣医学部卒業生の皆様、お変わりありませんか。

今年は去年に比べて夏も比較的おだやかで、稲作、果樹などの作物も順調に成育の由とのことですが、卒業生の皆様には、あらためてお見舞い申しあげます。

春さきの地方選挙（県市首長・議員、町村長・議員）において、日大OBは全員が当選しましたが、本学OBの相馬紀明氏（林学出身）は、大月市区の県議選を二位で当選しました。

一九九一年の山梨県の大学合格者が発表（山梨日日新聞調べ）され、日本大学が私学の部で今年もまた引き続き一位（日本大学二百五十五名、東海大百八十三名、山梨学院大百八十一名）でしたが、分野別のうち、農学系で我が農獣医学部は三三%を占め、東京農大、東海大、明治大をリードしました。

日本大学農獣医学部校友会山梨県支部の看板（第四三号に写真掲載）をかかげての、校友会活動も意味があろうかと思われます。

春さきのゴールデンウィークに本支部より支部長・藤森義一理事が、八ケ岳植樹祭（主催県毎）に招かれましたが、地元町村長はじめ多数が参加し、第十六回を数えるとのことでした。緑を大切にするということは、関係者のみならず大変よろこばしいことだと思いました。

自然を守っていく我々の同志の本学OB・中川雄三氏（山梨スズキ販売吉田営業所勤務）は、富士山麓の自然保護に力を入れ、仲間や子ども、父兄達とともに歩んでいる姿が、新聞・テレビなどに報道されて感銘を受けている次第です。

朗報が相つぎましたが、五月八日に校友会山梨県支部の役員であり、育成を見守ってくれた日向進氏（農芸化学科・昭三十四年本・山梨県立農業大学副校長・農学博士）が、五十四歳の若さで他界しましたことは、山梨県にとっても本学校友会にとっても、惜しい人材を失いました。支部では花輪を送り、冥福を祈りました。

全日大校友会山梨県支部（田中高雄支部長）では、名簿作成をいそいでおりましたが、本年末には完成とのこと。その配布を兼ねて本支部の総会を早急に実施したいと思いますので、その節は諸先輩のご協力をお願いします。

（支部長・遠藤晴正）

【追伸】　次号からは本学OBの農業体験記、海外視察記などを記載していきたいと思いますのでご期待ください。

作ろう!!
趣味のOBサークルを

大空をゆうゆう散歩する

空を飛ぶものに取りつかれて子どものころから、竹ひごをローソクで曲げて作ったゴム動力の模型飛行機、子どもと一緒にやったラジコン飛行機とハンググライダー。そして脱葉、入院。しかしいつも自分がコックピットで操縦桿をにぎることを夢見てきました。

このごろでは、人の勧めで安全なグライダーの練習をやって、四年ほど前にライセンスを取得し、トンビのようにゆうゆうと大空の散歩や、宙返りなどのアクロバットを楽しんでいます。さらに、欲が出て、軽飛行機のライセンスも取るため、セスナに乗り、練習しています。

校友会は親睦を通して縦横のつながりを作り、校友会みんなの発展を願う組織ですが、この意味からしても、校友会の中に趣味のOBサークルを作るのは意義があると思っている一人です。私のような趣味に限らず、ほかにもいろいろなサークルを校友会内に作って同好の士と楽しく過ごしませんか

（連絡先＝〒一一五　東京都北区神谷一の十二の二　東十条ダイカンプラザ二〇一　野田義人）